

○目の前で人が倒れたら…

先日、あるプロ野球のコーチが駅構内で倒れている人を発見し、人命救助をしたというニュースを見ました。とても素晴らしいことですね。もし自分がそのような場面に出くわしたら、どうしますか？

いつでもどこでも、その機会が訪れる可能性はあります。ある学校では、先生が廊下で倒れているのを生徒が発見し、適切にAED（自動体外式除細動器）を用いて救ったという事例もあります。

AEDは、保健室前に1つ、硬式野球部監督室に1つ、そしてボート部が使用している艇庫に1つあります。しかし、工業高校で全国第2位の広さを誇る本校で、AEDを取りに行き戻るまでどのくらいの時間を要するのでしょうか？

倒れて5分以内にAEDを使用できれば良いのですが、5分を過ぎると1分毎に蘇生率が10%ずつ下がります。救急車の到着時間は平均8.5分。つまり、救急車の到着を待たず、その場に居合わせた人が、すぐに対応することが不可欠なのです。

実際に救急救命講習を受けることをお勧めしますが、その時間も取ることは難しいかも知れませんので、以下に手順を紹介しておきます。

<心肺蘇生の手順>

① 反応の確認	肩をたたきながら「大丈夫ですか!」、「もしもし!」と呼びかける。反応があればOK!
② 大声で助けを呼ぶ	・119番通報 ・「だれか来て!」と叫ぶなど、助けを呼ぶ。 ・AEDを持ってきてもらう。
③ 呼吸の確認	・倒れた人の胸とお腹の動きを見る。
④ 胸骨圧迫（心臓マッサージ）の開始!	・呼吸が分からないときは、直ちに胸骨圧迫! <手順> ①胸のほぼ中央に片方の手の付け根を置く。 ②その手の上にもう一方の手を重ねる。 ③肘を伸ばし、垂直に体重をかけ胸を圧迫。 ④胸が少なくとも5cm沈み込むくらい、強く同じリズムで、1分間に少なくとも100回のリズムで圧迫を行う。 ※人工呼吸は危険なのでやらない!
⑤ AEDの使用	AEDが届いたら、直ちに使用する!
⑥ 救急車で搬送	

○「ASUKAモデル」

小学6年の桐田明日香さんが駅伝練習中に倒れ、死亡するという事故がありました。倒れた直後に「けいれん」や「死戦期呼吸」という症状があったために、校内のAEDを使わなかったそうです。

それを受けて、「ASUKAモデル」が作成されました。よければ、「ASUKAモデル」を検索して、動画を見てみてください。かなり考えさせられるはずです。

この機会に、身の回りの安全や設備について考えるとともに、いざという時に自分に何ができるのかを考えてみましょう。